

国土交通省 近畿地方整備局
和歌山工事事務所

資料配布

配布日時

平成13年9月11日
18時00分

件名

有本揚排水機場の効果で浸水区域が6.5^{ヘクタール}減少
～ 秋雨前線（9月7日）による豪雨 ～

概要

現在、有本揚排水機場は有本川への浄化用水と有本地区の内水対策を合わせもった施設で、平成12年4月より暫定運用をしています。
秋雨前線による豪雨は9月6日20時から降り始め累加雨量は198.5mm（有本地区の和歌山工事事務所雨量観測所）を記録しました。
この豪雨で有本地区の16^{ヘクタール}が浸水しました（和歌山工事事務所調べ）。
もし有本揚排水機場が無かたら、近畿地方整備局和歌山工事事務所で行った想定シミュレーションでは、有本地区の浸水区域は22.5^{ヘクタール}に広がっていたこととなります。
今回の豪雨においては、紀の川本川の水位が低かったため、自然排水が可能となり浸水エリアが減少できたものです。
また、有本揚排水機場と有本川改修事業は、地域の協力を持って出来た施設です。

取り扱い

テレビ・ラジオ : _____
新聞 : _____

配布場所

和歌山県政記者クラブ
和歌山県地方新聞記者クラブ
和歌山県政放送記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 近畿地方整備局 和歌山工事事務所
調査第一課長 和佐喜平（内線351）
電話：073-424-2471

【有本揚排水機場の目的】

- 紀の川から有本川、大門川に浄化用水を導水し、有本川、大門川等の水質の改善を図る。
- 有本地区の内水対策を図るため、紀の川へ自然排水とポンプ排水できる機能をもつ。

【有本揚排水機場の効果】

- 有本地区内水対策【平成13年9月7日豪雨】

有本揚排水機場が無い場合	浸水面積	22.5%	(想定シミュレーション)
有本揚排水機場が有る場合(現在)	浸水面積	16.0%	

【有本揚排水機場の効果の条件】

- 有本揚排水機場は地域の協力を持って出来た施設です。
- 今回の豪雨の効果は、紀の川本川の水位が低かったため、自然排水が可能となりました。

《参 考》

【有本揚排水機場のポンプ諸元】

- 有本川(浄化用水) 2m³/sec×2台
- 大門川(浄化用水) 2m³/sec×2台【計画】
- 有本川(排水用水) 2m³/sec×2台

※なお、平常時は有本揚排水機場より有本川へ浄化を行っています。

また、今回の自然排水では最大約6m³/secの排水量があったと推定されます。

【有本揚排水機場の事業経緯】

- 昭和54年度 有本揚排水機場事業着手
- 昭和56年度 用地買収着手
- 平成3年度 有本揚排水機場建設工事着手
- 平成11年度 有本揚排水機場場内設備工事完成
- 平成12年度 有本川への導水開始

【有本揚排水機場の効果】

○有本地区内水被害(平成13年9月7日豪雨)

